

## III-5、戦前大龍柱は欄干に連結していたのか——西村説の検証

## 要旨

- ・西村氏は、戦前の大龍柱が、かつては台石がなく石階段欄干に連結して正面を向いていたとして、末広階段の欄干に連結した大龍柱の想像図を描いている（西村 2020）
- ・その証拠として、石階段親柱に大龍柱と連結する笠石のホゾ穴があることをあげている。
- ・しかし、大龍柱側親柱のホゾ穴は、戦前大龍柱が欄干と連結していた証明にはならない。
- ・大龍柱側親柱のホゾ穴は、かつては Sc-博 6 のように大龍柱が石階段欄干に連結して正面を向いていた時代があったことを示しているが、戦前大龍柱も欄干に連結して正面を向いていたことの証明にはならない。
- ・大龍柱が欄干から分離して大きな台石上で自立した後も、大龍柱側にホゾ穴がある親柱古材をそのまま使用しているからだ（不要になったホゾ穴を石灰で埋めて再使用している）。
- ・西村氏の想像図が成り立つためには、戦前の大龍柱側にもホゾ穴があったことを証明しなければならない。
- ・この項では、戦前大龍柱の背面にホゾ穴があった否かを検証した。
- ・III-3 で分析した、無台石で欄干に連結して正面を向いていた大龍柱 Sc-博 6 のホゾ穴と無彫刻部分との比較から、戦前大龍柱には、欄干に連結するホゾ穴は存在しないことが判明した。
- ・戦前大龍柱は、制作当初から、欄干に連結することなく台石上で自立していた。

## 1) 戦前大龍柱の背面にはホゾ穴がない

- ・これまで、戦前大龍柱の基部背面を写した古写真はないと考えられてきた。
- ・『沖縄・昭和 10 年代』には、昭和修理後の阿形大龍柱の背面写真があるが（図 1）、この大龍柱背面の基部（トグロ巻き部）は、昭和修理前の大龍柱右側面にあたる。ホゾ穴を石灰で埋めたように見える白い補修部分は、右側面にあったカスガイ溝を埋めた補修痕である。
- ・西村氏（1993：p.86）も指摘しているように、昭和修理では、大龍柱を正面向きから向き合いに変更した際に、頭部胴体と基部の向きをずらして接合している。

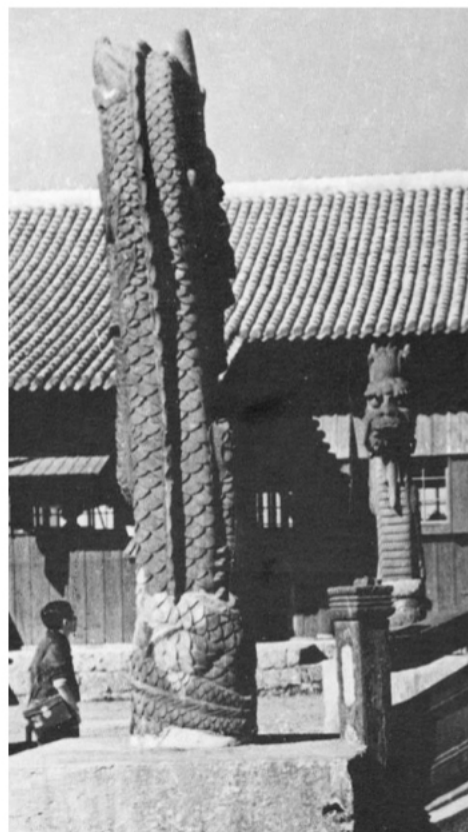


図 1：昭和修理後の大龍柱背面

基部（トグロ巻き）の石灰補修（白い部分）はカスガイ溝の跡。不要になった欄干親柱のホゾ穴も石灰で埋めている。

- ・ Sc-博 6 の分析結果 (III-4) をふまえると、戦前大龍柱の基部背面にはホゾ穴はなかったことが明らかである。
- ・ 図 2 は、古写真から作成した吡形基部のトグロ巻き展開図である。各方向から撮影した写真を接合するとトグロの巻き方が分かる。(昭和修理以後の 2 枚の写真は撮影アングルがほぼ一致するので合成できる。)



図 2：吡形大龍柱のトグロ巻きの展開図

戦前大龍柱の左右側面にカスガイが打ち込まれている。背面にも他の面にもホゾ穴がない。

- ・ 龍柱の胴体が、いったん台石下に潜った後に反転して再び台石上に現れた尾部が胴体に巻き付き、尾端が正面で右に巻いて終わる。
- ・ 展開図の正面には尾端があり、左側面にはカスガイが打ち込まれ、右側面にはカスガイ溝（カスガイを取り外して石灰で埋めている）がある。

- ・トグロ巻きの展開図から明らかなように、**昭和修理では頭部胴体の右側面側にトグロ巻部の背面を接合している（図3）**。阿形でも同様なズレがある（安里 2021.8/3 報告）。
- ・**図3**で、Sc-博6の背面と右側面の写真と、昭和修理以前・以後のトグロ巻部を比較した。古写真の吽形基部の高さは約58cm、Sc-博6は約54cmでほぼ同じ高さである。
- ・戦前大龍柱の背面にホゾ穴があるとすれば、トグロ巻き部の背面にホゾ穴や無彫刻部分があるはずだが、それらは存在せず全面に彫刻が施されている。
- ・図8の比較図から、**戦前大龍柱（吽形）のトグロ巻部背面にも各面にも、欄干の羽目石・地覆石を嵌め込むホゾ穴や無彫刻部分が存在しないという事実が明らかになる。**
- ・西村氏のスケッチでも、地覆石と羽目石はSc-博6のホゾ穴とほぼ同位置で連結しているが、戦前大龍柱のこの部分にホゾ穴は存在しない。
- ・**戦前大龍柱の出土遺物と残欠をほぼ全て確認したが、ホゾ穴は確認できなかった。**西村氏の想像図にあるような**戦前の大龍柱が欄干に連結して正面を向く状態は、歴史上存在しなかったといえる。**
- ・欄干とホゾ組で連結した無台石の大龍柱が確認できたのは、1729年以前のSc-博6だけである。

#### 引用文献

西村貞雄 2020「独自性と大龍柱（下）」沖縄タイムス、9月23日。



図3：吽形大龍柱の背面（欄干に連結するホゾ穴がない）

昭和修理で、頭部～胴部と基部（トグロ巻）の向きがズレている。トグロ巻き背面には、欄干部材に連結するホゾ穴や無彫刻部分がない。戦前大龍柱は、制作当初から欄干に連結せず台石上で自立していたことが分かる。